

観光による地域の活性化

SDGsのゴール



施策概要

このページは、観光による地域の活性化に向けた取組みを掲載しています。

市内には世界遺産に登録された宗像大社をはじめ、歴史、食、自然、スポーツ、お祭りといった観光資源が多くあります。これら観光資源を生かした、地域が潤う仕組みづくりとなる宗像版のDMO^{*}を確立するとともに、道の駅むなかた、街道の駅赤馬館の周辺に賑わいを創出し、観光資源をつなぎながら、地域の活性化を図っていきます。

また、ターゲットに応じた情報受発信の強化や二次交通の充実を図り、多様な世代の呼び込みや市内回遊性の向上を図っていきます。

前期の主な取組み

○宗像版観光プラットフォーム^{*}の推進として、観光情報の一元化、情報発信の強化に取り組みました。また、宗像独自の旅行商品^{*}の開発、体験型観光の企画などに取り組みました。

○道の駅むなかたの拡張事業、出光佐三^{*}展示室の開設に取り組みました。また、新規出店補助金制度などを創設し、大島、赤間宿への新規出店を誘導することができました。

○県、北九州市や福岡市と連携することで、訪日外国人旅行者をはじめ、国内外から多くの観光客が訪れました。

施策区分とその現状・課題

宗像版観光DMOの確立

本市には、歴史、食、自然など他市にはない観光資源があり、多くの観光客が本市を訪れています。しかし、稼ぐ視点で観光資源のブラッシュアップや観光資源を生かした体験型観光メニューの創出が出来ていない現状にあります。

また、それらを主導し、事業者の調整を行うといった機能やデータに基づくマーケティング、ターゲットに応じた効果的な情報受発信を行うといった機能を有する組織も確立されていません。

そのため、観光戦略をたて、効果的な情報受発信、観光資源を生かして地域全体を調整するといった機能を有する宗像版観光DMOの組織を確立し、地域全体で稼ぐ仕組みを構築する必要があります。

関連するSDGsのゴール:8,9,17

観光拠点施設周辺への民間誘導と市内回遊性の向上

多くの観光客が宗像大社と道の駅むなかたを日帰り訪れ、その周辺や東部観光拠点^{*}である街道の駅赤馬館まで周遊していない現状にあります。また、県外及びインバウンド^{*}の観光客は、公共交通機関を利用して本市を訪れますが、宗像大社や市内観光地に公共交通機関を利用して行くためには、最寄駅からの二次交通の確保が課題です。

そのため、観光拠点である道の駅むなかた、街道の駅赤馬館を中心としてその周辺に賑わいや新たな魅力を創出するとともに、二次交通の充実による市内回遊性を高め、観光による地域経済の活性化を図っていく必要があります。

関連するSDGsのゴール:8,9,17



北斗の水くみ海浜公園

取組方針

地域全体で稼ぐ仕組みを構築するため、観光戦略をたて、効果的な情報受発信、地域全体を調整するといった機能を有する宗像版観光DMOの確立に向け支援を行っていきます。

また、DMOを中心に観光資源を生かした体験型観光メニューなどを組み合わせたツアーを造成し、団体客及び個人客の取り込みも行っていきます。

さらに、このような取組みを広域連携で展開し、国内はもとより海外からの観光客誘致にもつなげていきます。

観光拠点である道の駅むなかたや街道の駅赤馬館の周辺に、賑わいや新たな魅力を創出するため、観光、商業のための民間資本の誘導や新規店舗誘導を促進させていきます。

また、観光拠点施設周辺及び市内の回遊性を高めるため、二次交通の充実に向けた民間事業者との協議や新たな交通体系の検討を行っていきます。

さらに、観光施設として街道の駅赤馬館により多くの観光客を呼び込むため、施設運営のあり方や事業内容の見直しを行います。

戦略的取組

○協働

- ・観光協会、商工会や市内事業者と協働で観光情報の収集、共有や旅行会社、広告代理店、出版社などへの働きかけを行います。
- ・地域と協働で、市内の回遊性を高めるための地域観光ルートの設定、イベント、情報発信などを行います。

主な取組事業

- ・宗像版観光DMOを推進する体制づくりと機能強化
- ・宗像独自の旅行商品や体験型観光メニューの開発促進
- ・ターゲットを絞った旅行商品や体験型観光メニューの販売
- ・キャッシュレス^{*}推進による域外からの消費拡大
- ・体験型観光メニュー等を組み合わせた事業展開
- ・SNS^{*}やインフルエンサー^{*}を活用した観光情報の発信
- ・観光パンフレットの統合と多言語化、ネット配信
- ・広域連携による観光情報の受発信
- ・タイアップモデルツアーや海外PRの強化

- ・国道495号沿道での観光関連施設用地の確保
- ・国道495号沿道や唐津街道への民間資本や店舗の誘導と支援
- ・街道の駅赤馬館のあり方検討
- ・福岡、北九州からの直行便の促進
- ・観光に特化した市内交通網のあり方検討
- ・MaaS^{*}、自動運転、レンタカート^{*}などの実証に向けた調査、検討

○都市ブランド

- ・若い世代や子育て家族にとって魅力的な観光スポットの創出やサービスの提供を行います。
- ・観光資源などの情報発信による本市の認知度向上を図ります。

地域産業の 活性化①

SDGsのゴール



施策概要

このページは、地域産業*の活性化に向けた取組みを掲載しています。

農業、水産業については、本市の豊かな自然に育まれた安全で安心な農産物、水産物を持続的かつ安定的に供給するため、後継者の育成、経営規模の拡大、農産物や水産物の認知度向上、消費拡大を図るなど、農業者や漁業者などが安心して生産、漁獲できる取組みを展開していきます。

商工業、企業誘致については、市内の商工業発展へ向けた助成制度の充実や新たな雇用を生み出す企業誘致や起業支援への取組みを展開していきます。

前期の主な取組み

○地域おこし協力隊*を導入し、各隊員がもつノウハウやスキルなどを活用した事業を行いました。また、むなかた地域農業活性化機構*などと連携し、新規就農者の就業支援体制を拡充しました。さらに、鐘の岬活魚センター横の加工場においてHACCP*認証の衛生管理体制を構築するため製造工程図の作成などを行いました。加えて、宗像漁業協同組合が実施した製氷施設、給油施設、アワビ養殖施設、加工場などの漁業施設の改修の支援を行いました。

○「あまおう」の品質向上と収量増加による市場ブランド力の向上を目指し、ICT機器による栽培データ収集・分析システムを導入しました。また、宗像市水産物販売促進委員会を設立し、冬期の「鐘崎天然とらふく」、夏期の「宗像あなごちゃん」を中心に販売促進に取り組み、取引店舗を開拓するとともに、ネット通販など新たな販売チャンネルを構築しました。

○プレミアム商品券*の販売などをとおして、市内事業者の利用促進につながる消費拡大が図られました。また、起業を希望する人に対して、セミナーの開催や補助金の創設などの支援を行いました。

施策区分とその現状・課題

地域産業の担い手の確保

農業においては、長引く農産物価格の低迷などにより所得水準が伸び悩み、農業就業者の減少と高齢化が進行しています。

水産業においては、魚価の低迷、燃油の高騰に加え、漁獲量の減少などから所得が伸び悩んでいます。また、漁業従事者の高齢化などにより、担い手不足が進んでいます。

商工業においては、人口の減少や後継者不在などにより、まちの賑わいづくりを新たに担う人手が不足しています。

関連するSDGsのゴール:2,8,9,11,12,14,15,17

生産、販売の基盤の強化

農業では、農業経営を改善し、安定させるためには、経営規模のさらなる拡大を図る必要があります。また、近年全国的に大規模な自然災害が多発しており、ため池など農業用施設の安全確保対策の拡充も求められています。

水産業では、鐘崎・神湊・大島・地島の各漁港において、荷捌き所、加工所、製氷冷蔵冷凍施設などの漁港施設の改修や新設が必要な箇所があります。

商工業では、市場の縮小などにより事業環境がさらに厳しくなっているため、経営基盤の強化に向けた事業者への支援が必要です。

関連するSDGsのゴール:8,9,11,12,14,15,17



創業セミナー

取組方針

農業については、むなかた地域農業活性化機構、宗像農業協同組合などと連携を図りながら、新規就農希望者向けの説明会を開催し、就農に向けた実践的な研修を実施するなど、引き続き次世代を担う新たな農業者の確保、育成に取り組めます。

水産業については、県や宗像漁業協同組合と連携し、県立水産高校の漁業ガイダンス*、新規就業セミナーなどへ参加し、漁業者の確保を行います。また、同組合と連携し、外部団体を活用したセミナーを開催するなどし、未来に向けて魅力ある水産業づくりに取り組んでいきます。

商工業については、商工会や金融機関、創業支援を専門とする民間企業などと連携した相談窓口の設置や創業セミナーを行うなど、宗像での創業(“宗業”(そうぎょう))を希望する人への支援を強化します。また、まちの賑わいづくりのため、北部観光ゾーン(国道495号沿道、御製広場など)における店舗誘致の強化に取り組み、新たな担い手の確保に取り組めます。

農業については、認定農業者*などへの農地集積や機械、施設の導入など、経営規模の拡大に向けた生産基盤の整備を進めます。また、決壊した場合の影響が大きいため池について、ハザードマップ*を作成するとともに、農業用施設の維持補強に取り組めます。

水産業については、宗像漁業協同組合と連携を図りながら、漁場の再生、資源回復、付加価値の高い水産物の養殖や蓄養の実施に向けた調査研究などを行い、生産性を高め、未来に向けて魅力ある水産業づくりに取り組んでいきます。あわせて、荷捌き所や製氷冷蔵冷凍施設など、鐘崎、神湊、大島、地島の漁業施設の整備を進めていきます。

商工業については、創業希望者への支援とともに、市内事業者が新たにチャレンジする販路拡大や生産性向上などへの取組みを積極的に支援し、事業者の稼ぐ力を強化します。



うに駆除の様子

主な取組事業

- ・後継者、新規就農者・新規就漁者の確保、育成
- ・漁業者の若手リーダー育成支援
- ・創業支援の充実、“宗業”者応援補助金の充実
- ・北部沿道商業地など新規出店補助金の充実

- ・農地集積などの推進、認定農業者などの経営改善支援
- ・農地の保全活動に対する支援
- ・農業用施設の維持補強の推進
- ・漁場再生事業の充実
- ・新荷捌き所(鐘崎)、製氷冷蔵冷凍施設、加工所などの漁業施設の整備
- ・市内中小企業への各種補助制度の充実

地域産業の 活性化②

SDGsのゴール



施策概要

このページは、地域産業の活性化に向けた取組みを掲載しています。

農業、水産業については、本市の豊かな自然に育まれた安全で安心な農産物、水産物を持続的かつ安定的に供給するため、後継者の育成、経営規模の拡大、農産物や水産物の認知度向上、消費拡大を図るなど、農業者や漁業者などが安心して生産、漁獲できる取組みを展開していきます。

商工業、企業誘致については、市内の商工業発展へ向けた助成制度の充実や新たな雇用を生み出す企業誘致や起業支援への取組みを展開していきます。

前期の主な取組み

○地域おこし協力隊を導入し、各隊員がもつノウハウやスキルなどを活用した事業を行いました。また、おなかつ地域農業活性化機構などと連携し、新規就農者の就農支援体制を拡充しました。さらに、鐘の岬活魚センター横の加工場においてHACCP※認証の衛生管理体制を構築するため製造工程図の作成などを行いました。加えて、宗像漁業協同組合が実施した製氷施設、給油施設、アワビ養殖施設、加工場などの漁業施設の改修の支援を行いました。

○「あまおう」の品質向上と収量増加による市場ブランド力の向上を目指し、ICT機器による栽培データ収集・分析システムを導入しました。また、宗像市水産物販売促進委員会を設立し、冬期の「鐘崎天然とらふく」、夏期の「宗像あなごちゃん」を中心に販売促進に取り組み、取引店舗を開拓するとともに、ネット通販など新たな販売チャンネルを構築しました。

○プレミアム商品券の販売などとおして、市内事業者の利用促進につながる消費拡大が図られました。また、起業を希望する人に対して、セミナーの開催や補助金の創設などの支援を行いました。

施策区分とその現状・課題

ブランド化、消費の拡大、連携の強化

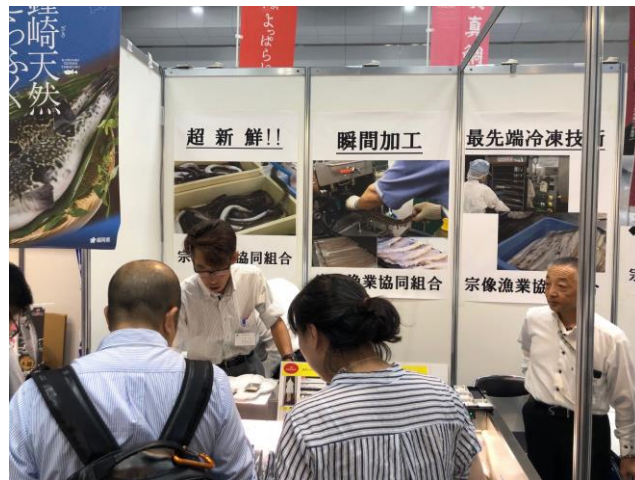
市内の農産物、水産物、加工品の品質は、非常に高いものがありますが、まだまだ市外での認知度は十分ではありません。これらの販売を促進するためには、産業団体をはじめ、関係機関と連携し、一体的なブランド構築、消費の拡大に取り組み、知名度を向上させ、市内はもとより、国内外での販路拡大や消費拡大を図り、地域産業を活性化させていく必要があります。

関連するSDGsのゴール:8,9,11,17

企業誘致

市内に新たな雇用の場を確保することは地域産業の活性化のみならず、定住の促進や税収の確保などにおいて、重要な要因であるといえます。今後、企業誘致をさらに推進するためには、企業が立地できる新たな産業用地の確保が必要です。また、まちの賑わいづくりのためには、店舗などの誘致にも積極的に取り組んでいく必要があります。

関連するSDGsのゴール:8,9,11,17



東京シーフードショー

取組方針

宗像農業協同組合、宗像漁業協同組合、宗像市商工会などと連携して、市内の農産物、水産物、加工品のブランド化を推進し、発信していきます。

ブランド化を推進することで、市外への販路の拡大を図っていきます。さらには、市内の飲食店、小売店舗などに市内の農産物、水産物、加工品の活用を働きかけるとともに、市民が市内で消費する仕組みづくりを検討することで、域内での消費を拡大させます。

民間企業、大学、県などと連携し、品質、加工、保存技術の向上に向けた調査研究などを行い、さらなる商品の高付加価値化を図っていきます。

新たな産業用地の確保に向け、第2次宗像市国土利用計画に位置付けられた宮若インターチェンジ近接地や国道3号沿いの産業用地の確保に取り組んでいきます。

また、工場や店舗などの立地に適する用地の情報を広く収集し、本市の優れた住環境や立地企業への優遇制度とあわせ、立地を希望する企業などに情報を提供していきます。

戦略的取組

○協働

農協、漁協、生産者だけでなく、食品加工事業者などとも協働して、6次産業化など農業、水産業の活性化に向けた取組みを推進します。

○都市ブランド

・宗像産の新鮮で安全安心な農水産物を提供します。
・創業地に選ばれる賑わいのあるまちづくりを目指します。



鐘崎天然とらふく

資源を活かした島の活性化①

SDGsのゴール



施策概要

このページは、島の振興に向けた取組みを掲載しています。

貴重な島の資源を生かした交流人口の増加、島の産業振興により、島の担い手や外部人材を確保し、島の活性化につなげ、島民が島で元気に安心して生活できる環境の整備を行っていきます。

前期の主な取組み

○地域おこし協力隊を導入し、各隊員がもつノウハウやスキルなどを活用した事業を行いました。また、大島においては、七夕祭り、臨海学校、みあれ祭見学ツアーなど島の交流につながる事業を実施しました。さらに、光回線敷設事業、御嶽山展望台整備など、観光客などの利便性向上に努めました。地島においては、婚活、地引網、わかめ加工体験など島の移住、定住、交流につながる事業を実施しました。また、椿の植樹や椿ロードの整備など、観光客などの利便性向上に努めました。

○大島では、市場価値の高い柑橘類の栽培の支援を行いました。地島では、地島天然わかめのブランド化の取組みへの支援を行いました。

○観光客へのお土産対策として、宗像漁業協同組合によるお土産館(さよしま)の開店、ターミナルのお土産品の充実、タブレット[※]やコンシェルジュの配置などを行いました。

○大島小・中学校を義務教育学校大島学園として開校しました。また、地島については、漁村留学を継続し、島外からの子どもたちの受け入れを行うとともに、子どもたちの教育環境を充実させるため、離島体験交流施設を整備しました。

施策区分とその現状・課題

交流人口・関係人口の創出

自然や歴史、観光スポットなど恵まれた島特有の資源や島の施設を活用することで、市外に情報発信し、交流人口・関係人口の増加により島の賑わいを創出していく必要があります。

関連するSDGsのゴール:8,9

島の産業の強化

農業においては、農業の担い手が少なくなり、耕作放棄地が拡大する傾向にあります。水産業においては、魚価の低迷、燃油の高騰に加え、漁獲量の減少などから所得が伸び悩んでいます。そのため、農地の有効利用、資源の回復、島ならではの農産物、水産物に付加価値をつけるなど、島の主要産業である農業、水産業を強化していく必要があります。

関連するSDGsのゴール:8,9,11,14,15

取組方針

大島においては「うみんぐ大島」を、地島においては離島体験交流施設を島の交流拠点と位置づけ、地域資源を生かした産業の活性化、交流人口増加につながる漁業、農業、島生活などの体験プログラムやイベントを開発し、実施していきます。

また、大島では世界文化遺産「『神宿る島』宗像・沖ノ島と関連遺産群」の構成資産[※]である宗像大社中津宮[※]と沖津宮遙拝所[※]や砲台跡、九州オルレ[※]コースなどを活用した島の観光推進や海外観光客誘致も視野に入れた島内イベントなどを検討していきます。地島では、椿まつりなどを活かした島の賑わいづくりに取り組んでいきます。

農業においては、農地の保全と有効活用を図るため、地域の特性を生かした付加価値の高い農産物栽培の奨励、体験農園などの観光への活用や農福商連携[※]に関する調査研究、花苗などの景観作物[※]の植栽などの取組みを支援していきます。

水産業においては、漁協と連携を図りながら、6次産業化の推進、漁場の再生、資源回復、付加価値の高い水産物の養殖に向けた調査研究などを行っていきます。

主な取組事業

- ・空き家活用による田舎暮らし体験事業の検討
- ・民泊による交流人口・関係人口の拡充
- ・遊休地[※]利活用事業の推進
- ・特産品開発の支援
- ・島内交通体系の再検討
- ・つばきロード、九州オルレコース、世界遺産の構成資産を活用したウォーキング・バスハイク事業の推進
- ・観光ボランティア養成事業の充実

- ・農業、水産業の6次産業化の推進
- ・中山間地域などの農業支援
- ・体験農園、景観作物栽培事業、農福商連携の調査研究
- ・地域おこし企業人など、民間活力を生かした事業の検討、実施



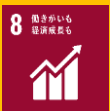
大島七夕まつり



地島地引網

資源を活かした島の活性化②

SDGsのゴール



施策概要

このページは、島の振興に向けた取組みを掲載しています。

貴重な島の資源を生かした交流人口の増加、島の産業振興により、島の担い手や外部人材を確保し、島の活性化につなげ、島民が島で元気に安心して生活できる環境の整備を行っていきます。

前期の主な取組み

○地域おこし協力隊を導入し、各隊員がもつノウハウやスキルなどを活用した事業を行いました。また、大島においては、七夕祭り、臨海学校、みあれ祭見学ツアーなど島の交流につながる事業を実施しました。さらに、光回線敷設事業、御嶽山展望台整備など、観光客などの利便性向上に努めました。地島においては、婚活、地引網、わかめ加工体験など島の移住、定住、交流につながる事業を実施しました。また、椿の植樹や椿ロードの整備など、観光客などの利便性向上に努めました。

○大島では、市場価値の高い柑橘類の栽培の支援を行いました。地島では、地島天然わかめのブランド化の取組みへの支援を行いました。

○観光客へのお土産対策として、漁協によるお土産館(さよしま)の开店、ターミナルのお土産品の充実、タブレット[※]やコンシェルジュの配置などを行いました。

○大島小・中学校を義務教育学校大島学園として開校しました。また、地島については、漁村留学を継続し、島外からの子どもたちの受け入れを行うとともに、子どもたちの教育環境を充実させるため、離島体験交流施設を整備しました。

施策区分とその現状・課題

島での就業機会確保と移住の促進

少子高齢化や若者の島外流出により島の人口減少が進み、島の賑わいが失われ始めています。そのため、今後は主要産業である農水産業の強化に加えて、新たな産業を興し、島内の新たな就業機会の確保や企業誘致など、島への移住者を増加させる環境整備や支援を行っていく必要があります。

関連するSDGsのゴール:8,9,11

島独自の人材育成

島においては、コミュニティ運営協議会、島づくり団体を中心に地域づくりを進めていますが、少子高齢化や人口の減少によって、島民による自主的活動、自立的活動の担い手が不足し始めています。そのため、後継者の育成、外部人材の受け入れによる人材の確保、活用が必要となっています。

関連するSDGsのゴール:9,11



砂浜映画館

取組方針

新たな観光客を取り込むための民泊事業の支援をはじめ、ターミナルでのインフォメーション機能の向上、土産品の充実など、島の新たな産業として観光業を興すことで、島内の雇用確保や交流人口の増加を図り、島の魅力を向上させていきます。また、島の魅力を島外へ発信することで、企業誘致や移住の促進を図っていきます。加えて、観光客、島民が一緒に楽しめるイベントやお祭りなどを開催し、参加者をとおりて島の魅力を島外へ発信していきます。

島での様々な課題を解決するため、島外の人とともに、島内と島外を結ぶ中間支援組織[※]を育成します。島外からの人材の確保は、大学、企業からの短期人材派遣の受け入れを行っていきます。また、島の魅力や誇りを実感できる授業を学校で行うことにより、後継者となりうる人材の育成を目指していきます。加えて、漁村留学により校区外の児童を受け入れ、教育活動の充実を図っていきます。

戦略的取組

○協働

- ・島の活性化につながる体験交流プログラムなどのメニューの開発を行います。
- ・市民活動団体、コミュニティ運営協議会、企業、大学などと協働し、島の担い手を確保するための人材の交流、育成を行います。

○都市ブランド

- ・島ならではの体験プログラムやイベントと様々な食事の提供に力をいれます。
- ・高付加価値の農産物の栽培や民泊などの観光客をもてなす新しいサービス産業を育てます。

主な取組事業

- ・空き家などの遊休資産活用による滞在型就業支援
- ・大島島内空き家の解放準備資金補助制度(仮)創設の検討
- ・農産物、水産物を活用した新たな観光産業の調査研究
- ・特産品開発による土産品の充実
- ・観光客、島民参加型イベントなどの実施

- ・島の伝統行事や空き家活用事業などにおける島内外交流事業の推進
- ・中間支援組織体制などの整備
- ・離島体験交流事業や人材育成事業の実施
- ・島独自の人材育成プログラムの実践

女性の活躍推進による 地域社会の活性化

SDGsのゴール



施策概要

このページは、女性の活躍の推進に向けた取組みを掲載しています。
女性が自らの意思によって個性と能力を十分に発揮し、家庭・仕事・地域など様々な分野において活躍することができるよう啓発と支援を行います。

施策区分とその現状・課題

女性の活躍推進

あらゆる分野で女性の活躍を推進していくためには、依然として低い施策や方針などの意思決定に参画する女性の割合を改善する必要があります。
また、働くことを希望する女性が、仕事と子育て・家事・介護などとの二者択一を迫られることなくその能力を十分に発揮し、活躍することができるようにするためには、男女がともに家事や育児に携わる家庭環境づくりとワーク・ライフ・バランスを応援する職場環境づくりが必要となります。
さらに、女性の活躍を推進するためには、女性活躍の機運の醸成や、自らの希望を実現して活躍できるよう支援をする必要があります。

関連するSDGsのゴール:4,5,8,9,16

地域での活躍

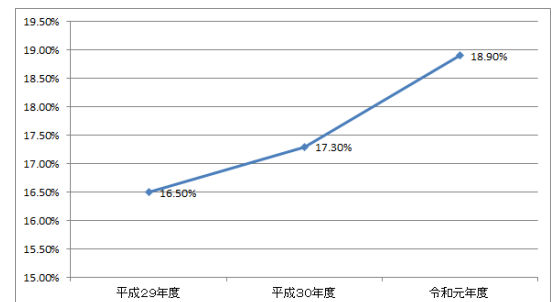
自治会やPTAなどの地域活動においては、これまで多くの女性が活動を担ってきましたが、高齢化や防災など、山積する課題に対応し、活力ある地域を維持するためには、女性が意思決定により参画し、男女共同参画の視点を反映させていくことが重要となっています。

関連するSDGsのゴール:4,5,8,16

就労、起業支援

女性の就労意識に変化が見られます。本市でも、結婚や出産に関わらず、ずっと職業を持ち続けることを希望する女性の割合が5割を超えるなど、就労支援の必要性が高まっています。
また、女性の起業は、経済活動への参画を促すとともに、新たな地域経済の担い手を創出し、地域社会を活性化するものとして期待されています。

関連するSDGsのゴール:4,5,8,9



自治会の会長・副会長における女性の割合

取組方針

女性の活躍を推進していくために、施策や方針などの意思決定の際に女性の意見が反映されるよう、附属機関など委員への女性の登用を図るほか、事業所などに対して女性活躍の機運の醸成を図ります。
ワーク・ライフ・バランスの確立に向けて、家庭や事業所に対する情報提供や、啓発を推進していきます。
あらゆる分野での女性の活躍を支援するため、女性活躍の機運醸成のための啓発に取り組むほか、知識や能力を習得するための講座や情報提供など、支援の充実に努めます。

意思決定の際に女性の意見が反映されるよう、地域活動の役職に女性の登用を図るほか、あらゆる地域活動において男女共同参画の推進に取り組みます。

女性の職業生活の支援については、子育て中の女性の再就職支援や働く女性のキャリアアップ支援、潜在的起業希望者や初期起業準備者を対象とした講座の開催などのほか、支援制度などの情報提供に取り組めます。

戦略的取組

○協働
市民活動団体、企業などと協働し、女性の就労・起業への支援を推進します。

○都市ブランド
あらゆる分野において、女性が活躍できるような環境整備を推進します。

主な取組事業

- ・附属機関などにおける施策や方針決定過程への女性の参画推進
- ・ワーク・ライフ・バランスの啓発
- ・両立支援*制度などの情報提供
- ・女性の活躍を支援する講座などの開催(再掲)

- ・地域における意思決定過程への女性の参画推進
- ・地域活動などにおける男女共同参画の推進

- ・女性の職業生活の支援につながる講座の開催
- ・支援制度などの情報提供

生涯を通じた 学習の振興①

SDGsのゴール



施策概要

このページは、生涯学習活動、文化芸術活動の推進に向けた取組みを掲載しています。生涯学習活動や文化芸術活動をとおして、様々な分野を学んだり、鑑賞できる機会を創出するとともに、学んだ成果を広くまちづくりに生かす仕組みの構築や市民図書館を誰もが身近に感じることができるよう、充実を図り、市民一人ひとりの生きがいにつながっていきます。

前期の主な取組み

- 市民学習ネットワーク*事業・大学連携事業などに取り組み、多岐にわたる市民の学習機会を提供することができました。
- 宗像ユリックスの長年にわたるいきいき出前コンサートなどの取組みが高く評価され、地域創造大賞*(総務大臣賞)を受賞しました。また、「音楽があふれるまち」を基本とした様々な事業に取り組み、広く市内で文化芸術活動を鑑賞できる場を提供できました。
- 宗像市読書のまちづくり推進計画を策定し、市民協働による読書活動推進事業を展開しました。また、電子図書館*サービスを導入し、多様な手段で本に親しむ環境を整備しました。

施策区分とその現状・課題

学びや活動ができる場の提供

市内では、市民学習ネットワークによる学習講座、市内2大学の公開講座、市主催のルックルック講座、各種養成講座など数多くの学習機会が提供されています。また、地域や市民活動団体の催し、活動をとおして、日常生活のなかに宗像の良さや伝統を学ぶ機会も提供されています。引き続き、各種団体と連携し、市民への情報の受発信や学びの成果を発揮できる場を提供していく必要があります。

関連するSDGsのゴール:4,10,17

文化芸術活動の充実

市内で文化芸術活動を鑑賞できたり、体験できたりする場所は、その拠点である宗像ユリックス、一部の学校やコミュニティ・センターに限られている状況にあります。また、若手芸術家やプロを目指そうとする芸術家が市内で活動せず、福岡市などの大都市へその舞台を求めている状況もみられます。そのため、宗像ユリックスだけでなく、広く市内で文化芸術活動を鑑賞できる場の拡大、芸術家などが市内で活躍できる場の拡大や文化芸術を異分野で活用していくとともに、本市の文化芸術活動の拠点である宗像ユリックスの老朽化に伴う計画的な整備に取り組む必要があります。

関連するSDGsのゴール:10,17



ミアーレ吹奏楽団500人コンサート

取組方針

市民が自発的に学び、参加する機会を拡充するため、多様な媒体を活用した情報受発信の強化や生涯学習機会の充実を図っていきます。また、様々な活動のなかで自ら気づき、学ぶ機会を促していきます。さらに、市民学習ネットワーク、市民活動団体、地域、大学、企業などと連携して、学べる場の提供や学んだ成果を広くまちづくりに活かす活動の場を増やしていきます。

「音楽があふれるまち」を基本として、宗像ユリックスを中心とする文化芸術活動の情報発信や収集、若手芸術家に活動の場を提供しながら、市民が文化芸術に触れる仕組みづくりを整備していきます。あわせて、宗像ユリックスに足を運ぶことが困難な市民に対しては、芸術家を派遣し、市内のあらゆる場所で芸術鑑賞ができる場を設けていきます。また、市民による文化芸術活動を積極的に支援していきながら、医療、福祉や観光など異分野で波及させるための取組みを行っていきます。

主な取組事業

- ・情報の集約、定期的な情報発信、生涯学習機会の充実
- ・市民学習ネットワーク、市民活動団体、地域、大学、企業などとの連携による学べる場や活動の場の提供
- ・地域活動への参加、参画促進

- ・文化芸術活動の情報発信と収集の充実
- ・文化芸術活動団体、若手芸術家の活動支援
- ・音楽鑑賞出前事業の充実
- ・子どもの音楽活動支援事業の充実
- ・文化芸術活動のコーディネーターの養成
- ・文化芸術異分野活用のネットワーク化

生涯を通じた 学習の振興②

SDGsのゴール



施策概要

このページは、生涯学習活動、文化芸術活動の推進に向けた取組みを掲載しています。生涯学習活動や文化芸術活動をとおして、様々な分野を学んだり、鑑賞できる機会を創出するとともに、学んだ成果を広くまちづくりに生かす仕組みの構築や市民図書館を誰もが身近に感じることができるよう、充実を図り、市民一人ひとりの生きがいに繋がっていきます。

前期の主な取組み

- 市民学習ネットワーク事業・大学連携事業などに取り組み、多岐にわたる市民の学習機会を提供することができました。
- 宗像ユリックスの長年にわたるいきいき出前コンサートなどの取組みが高く評価され、地域創造大賞（総務大臣賞）を受賞しました。また、「音楽があふれるまち」を基本とした様々な事業に取り組み、広く市内で文化芸術活動を鑑賞できる場を提供できました。
- 宗像市読書のまちづくり推進計画※を策定し、市民協働による読書活動推進事業を展開しました。また、電子図書館サービスを導入し、多様な手段で本に親しむ環境を整備しました。

施策区分とその現状・課題

市民に身近な図書館づくり

宗像市読書のまちづくり推進計画を策定し、すべての市民が読書に親しむことができる環境づくりに取り組んできました。
また、市民協働を推進し、おはなし会やイベントなどを連携して実施することで、充実した事業を展開しました。
今後はさらに、読書活動に関わる市民やボランティアの育成や支援を行う必要があります。

関連するSDGsのゴール：4,11

取組方針

ライフステージ※に応じて、いつでもどこでも読書に親しめる環境をつくっていきます。
「読書月間」の周知を図り、図書館や地域、学校などで読書イベントを開催します。
市民やボランティアとの協力、連携を一層図るため、人材の育成や支援に引き続き取り組みます。

主な取組事業

- ・学校、家庭、地域などにおける子どもの読書活動の推進
- ・高齢者や障がい者が利用しやすい環境の整備
- ・読書ボランティアの育成、活動の場の提供
- ・市民に身近な場所でのイベントの開催
- ・電子図書館サービスの充実

戦略的取組

○協働

- ・市民活動団体、コミュニティ運営協議会、宗像ユリックスなどと協働し、文化芸術活動の場づくりや学習機会の充実を図ります。
- ・ボランティア、市民活動団体コミュニティ運営協議会と協働で、小さなころから本に親しむ機会を創出します。

○都市ブランド

- ・将来を担う子どもに宗像ユリックスやコミュニティセンターなど身近な場所で、音楽など本物の文化芸術にふれることができる機会を提供します。
- ・子育て世代が何度も行きたくなるような図書館のサービスを提供します。



読み聞かせ講座



図書館まつり

スポーツの 多面活用①

SDGsのゴール



施策概要

このページは、スポーツの魅力や可能性を引き出す取組みを掲載しています。

本市ではスポーツ推進計画^{*}に基づき、スポーツをとおして、市民の健康づくりや地域活動の増進を図っていきます。

また、市民がライフステージに応じて、スポーツと親しめるように、機会や場の提供、施設の整備などスポーツ環境の充実にも努めます。

さらに、スポーツをとおした観光事業を実施していきます。

前期の主な取組み

○コミュニティ単位の住民交流プログラムの企画に取り組み、各地区でプログラムが定着したことで、地域活動を増進することができました。

○スポーツサポートセンターを開設し、きっかけづくりとなるスポーツプログラムの提供やスポーツ指導者派遣をとおし、支援する体制を整えました。

○市民が利用しやすい施設の提供に取り組み、公共施設予約の窓口を一本化しました。

○東京2020オリンピック競技大会のブルガリア柔道代表チームとロシア7人制ラグビー女子代表チームとのキャンプ実施についての協定を締結し、事前キャンプの受け入れを行いました。

施策区分とその現状・課題

スポーツ、運動を通じた健康づくり、地域活動の増進

週1回以上スポーツ・運動を行う成人の割合は約43.5%となっており、国のスポーツ基本計画に定める65%程度を達成できていないため、スポーツ・運動をはじめの人を増やす必要があります。

各地区コミュニティでは、各種スポーツイベント、スポーツ・運動教室などを開催しており、スポーツ・運動を手段とした住民交流を行うことがまちの活性につながっています。

各コミュニティでは地域特性に応じた様々な住民間の交流事業を行い、更に「絆」を深める取組みが必要です。

関連するSDGsのゴール:3,9,17

ライフステージに応じたスポーツ活動の増進

児童生徒が「生きる力」を身に付けるため、学校体育は大きな役割を担っており、学習指導要領に基づいて体育科の授業を行っています。今後も楽しく運動しながら体力の向上を図る必要があります。しかしながら、本市の子どもたちの体力は、ここ5年間全国傾向と同じくほぼ横ばいの傾向で、昭和60年頃の水準には至っていません。

また、市民が生涯にわたり心身ともに健康で豊かな生活を営むため、ライフステージに対応したスポーツ・運動プログラムの提供及び活動支援をするための取組みを行う必要があります。

本市の障がい者スポーツ支援は、スポット的な支援に留まっており、日常的に障がい者のスポーツ・運動活動を支援できる仕組みづくりの検討が必要です。

関連するSDGsのゴール:3,4,9



多目的体験プログラム「トライMUNAKATA」でホッケーをする子どもたち

取組方針

スポーツ・運動を単に市民の自主、自発的な活動にまかせるだけでなく、習慣で楽しくスポーツ・運動をする市民を増やすための仕組みや機会を提供し、健康づくりにつなげます。

市民スポーツ団体などが地域と連携しながら、各地区の特性を生かしたスポーツ・運動活動を推進します。

市民一人ひとりの体力や健康状態に応じた運動やスポーツプログラムを提供、支援していく仕組みづくりを整えていきます。

コミュニティ内の住民交流をスポーツ・運動活動をとおして促進するためのサポート体制を整備します。

児童生徒のスポーツ・運動活動の支援については、楽しく体を動かす運動や遊びなどの新たな機会の提供や複数種目実施の推進をしながら、体力の向上及び将来にわたってスポーツ、運動をすることが好きになる子どもを増やしていく取組みを推進します。

ライフステージに応じたスポーツ・運動活動を推進するため、市民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも安全にスポーツ・運動に親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた環境の整備を図ります。

障がい者スポーツ支援については、障がいの種類や程度に応じて、障がい者が自主的かつ積極的にスポーツ・運動活動ができる環境整備や取組みについて調査研究し、必要な措置を講じていきます。



サニックスワールドラグビーユース交流大会

主な取組事業

- ・市民ウォーキング大会などの情報提供やコース整備の検討などによるウォーキングの普及・推進
- ・大学、企業、地域などとの連携による市民の健康活動の促進
- ・市全域を対象とした総合型地域スポーツクラブの設立・運営
- ・スポーツ、運動をとおしたコミュニティ活動の活発化

- ・子どもの育成年代に応じたスポーツ・運動活動の支援
- ・スポーツ指導者の育成及び活動支援などによるスポーツ指導者の体制の整備
- ・スポーツ未実施者などのライフステージに応じたスポーツ・運動プログラムの開発、実施
- ・障がい者のスポーツ、運動活動の支援

スポーツの 多面活用②

SDGsのゴール



施策概要

このページは、スポーツの魅力や可能性を引き出す取組みを掲載しています。

本市ではスポーツ推進計画に基づき、スポーツをとおして、市民の健康づくりや地域活動の増進を図っていきます。

また、市民がライフステージに応じて、スポーツと親しめるように、機会や場の提供、施設の整備などスポーツ環境の充実にも努めます。

さらに、スポーツをとおした観光事業を実施していきます。

前期の主な取組み

○コミュニティ単位の住民交流プログラムの企画に取り組み、各地区でプログラムが定着したことで、地域活動を増進することができました。

○スポーツサポートセンター[※]を開設し、きっかけづくりとなるスポーツプログラムの提供やスポーツ指導者派遣をとおし、支援する体制を整えました。

○市民が利用しやすい施設の提供に取り組み、公共施設予約の窓口を一本化しました。

○東京2020オリンピック競技大会のブルガリア柔道代表チームとロシア7人制ラグビー女子代表チームとのキャンプ実施についての協定を締結し、事前キャンプの受け入れを行いました。

施策区分とその現状・課題

地域スポーツ環境の整備

市内には、様々なスポーツ施設・団体などがあり多種多様なスポーツ資産を有していますが、それぞれの情報が集約されておらず、市民が有効に活用できていません。スポーツは「する」だけでなく「観る」「支える」ことで参加し、楽しむ方法もあることを広く市民に周知していますが、市民意識の向上にはつながっていません。

また、既存の3つの市営体育館や屋外スポーツ関連施設について、改修などを含めた今後の方向性を示す必要があります。

関連するSDGsのゴール:3,9,17

スポーツ観光の推進

民間スポーツ施設のグローバルアリーナでは、国際大会をはじめとする様々なスポーツ大会の誘致や開催、スポーツ合宿の誘致をとおして多くの人が市に訪れています。

本市は、スポーツ施設やホテル、旅館などの宿泊施設を有していますが、全市的にスポーツ観光を推進する体制が未整備で、宿泊客を増加させる取組みが不足しています。また、スポーツ大会・合宿に係る来訪客の市内観光を促進する仕組みが不十分で、地域経済活動の活性化に繋がっていません。

そのため、スポーツ関連で来訪する人たちへの宿泊・市内観光の促進につながる取組みが必要です。

関連するSDGsのゴール:9,17



子どもたちと交流するブルガリア柔道代表選手

取組方針

市内の企業スポーツ団体、大学、民間スポーツ施設、宗像市スポーツ協会などと連携し、それらが有するノウハウ、人材、施設などのスポーツ資産を有効活用して、地域スポーツ活動を活発化させるための推進体制を整備します。

スポーツを「する」だけでなく、「観る」「支える」視点からも捉え、市内でのトップスポーツ観戦機会の提供やスポーツ大会などを創り手、担い手として参画する市民ボランティアを育成していきます。

今後増加が見込まれるスポーツ人口に対応するために、高校・大学、民間スポーツ施設の活用、近隣市町のスポーツ施設の相互利用について検討し、必要な「スポーツ活動の場の確保」を図ります。

各スポーツ関連施設のあり方については、将来を見据えた調査研究を行っていきます。

スポーツ観光を推進し、市内外に情報発信を行うことにより、宗像の魅力の新たな形成やイメージアップ及び交流人口・関係人口の増加につなげます。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会でのキャンプ地誘致の取組実績を生かし、国、九州レベルでのスポーツ大会や興行、合宿などの誘致、宿泊を伴う広域スポーツ大会やイベントなどを開催するため、スポーツコミッション[※]組織を整備し、スポーツによる地域経済の活性化を図っていきます。

戦略的取組

○協働

- ・地域や大学などと協働で、市民のスポーツ参加機会の拡充や体力づくり支援などを行います。
- ・市民活動団体、地域、企業と協働で、スポーツ大会の誘致やイベントの開催を行います。

○都市ブランド

- ・地元の大学と連携し学校体育や学童スポーツの支援を拡充させ、スポーツ、運動が好きな子どもたちを増やすことで体力を向上させます。
- ・スポーツ観光の充実により市の認知度向上を図ります。

主な取組事業

- ・スポーツサポートセンターの機能の充実
- ・スポーツ情報の集約
- ・トップスポーツ試合の地元観戦機会の提供とトップアスリート[※]との交流事業の実施
- ・スポーツボランティアの活用・充実
- ・スポーツ関連施設の運営、整備、活用

- ・全国、九州レベルのスポーツ大会、スポーツ興行の誘致、開催支援
- ・宿泊を伴うスポーツ合宿の誘致
- ・宗像版スポーツコミッション組織の設立、支援
- ・宿泊や市内周遊につながるスポーツ大会の開催、支援